

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DA444／アイデンティティ論 (Sociological Theory of Identity)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	戦後日本社会と「自分らしさ」の履歴		
担当者名 (Instructor)	小倉 敏彦(OGURA TOSHIHIKO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC3210	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	社会学部生用 他学部生は抽選登録にて申し込むこと		

授業の目標 (Course Objectives)

様々な文化現象をアイデンティティという概念から読み解き、現代社会における「自己」と「他者」の関係性について理解を深める。

Students will interpret various cultural phenomena from identity concepts. They will deepen their understanding about connections among themselves and others in modern society.

授業の内容 (Course Contents)

この講義では、自己アイデンティティの形成を、社会的・歴史的なコンテキストのなかで考察することをめざす。特に1960年代以降の日本社会に生じた生活様式の変容が若者の自己形成に与えた影響を、当時の流行文化やメディア体験等に即して考えていきたい。そもそもアイデンティティという言葉が一般に流布したのは1960年代末であり、その背景には近代社会を支えてきた価値観が大きく揺らぎ始めたことがある。ゆえに当時の若者の関心や文化傾向を探ることは、近代的な自己形成モデルの変化を考える手がかりになるし、また現在の私たちの自己や人間関係のあり方を相対化する視点をも提供してくれるはずである。

In this lecture, students will analyze formation of self-identity in social and historical contexts. Particularly, students will follow 1960 Japanese trendy cultures and media experiences when thinking about impacts of changing lifestyles on youths' self-formations. Originally the word 'identity' gained widespread acceptance near end of 1960. It had shaken values that had been supporting modern society. By searching for youth interest and cultural trends at that time, students will obtain clues to think about changes in modern self-formation models. Furthermore, students will gain perspective to compare their relationships with themselves and others in modern time.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション
2. アイデンティティの社会的構成 G.H. ミード
3. 近代社会と再帰的自己 A. ギデンズ
4. 立身出世主義の精神 日本社会の流動化
5. 立身出世主義の変容 煩悶する青年たち
6. アイデンティティの季節 戦後における教育の大衆化
7. アイデンティティの季節(続き) 戦後日本とエリクソン
8. コミットしない若者たち モラトリアム人間論
9. 理想の時代から消費の時代へ 高度成長期の帰結
10. 消費を通じた自己形成 消費社会論
11. 消費を通じた自己形成(続き) アイデンティティ問題の後退
12. 自分らしさの蒸発 状況志向型人間
13. 脱アイデンティティの時代 分散化する自己
14. アイデンティティのゆくえ

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

講義内容は連続しているので、講義資料を読み返し、また授業のなかで掲示した参考文献に目を通しておくのが望ましい。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

レポート試験(Report Exam)(80%) / 授業内小テスト(20%)

テキスト (Textbooks)

特になし。授業は事前に公開する講義資料(レジュメ)と、スライドに基づいて行なう。

参考文献 (Readings)

1. 三浦雅士、2012、『青春の終焉』、講談社 (ISBN:4062921049)
 2. 竹内洋、2016、『日本のメリトクラシー 増補版』、東京大学出版会 (ISBN:4130511416)
 3. 上野千鶴子、1992、『増補 〈私〉探しゲーム』、筑摩書房 (ISBN:4480080058)
 4. 浅野智彦、2011、『趣味縁からはじまる社会参加』、岩波書店 (ISBN:400028455X)
- 授業時に指示する。

その他(HP等) (Others(e.g.HP))

講義資料(レジュメ)は毎週火曜、立教時間にアップロードする。

注意事項(Notice)